

募金の使われ方のひとつに「助成事業」があります

北区社会福祉協議会は、地域福祉の推進を目的に北区内で福祉活動をおこなう様々な団体の支援のための「助成事業」をおこなっています。この助成制度は、北区内で前年度に集められた「歳末たすけあい募金」を財源としていますので、北区の募金が北区の福祉に直接使われるしくみになっています。

今年度、助成金を受けた58団体のうち2団体をご紹介します。

～子どもがのびのびと遊べる地域に～ 北区で子どもの遊ぶ場をつくる会



運営スタッフのみなさん

（旧稲荷公園）と桐ヶ丘中央公園で、月に何度か公園占有許可を得て「1日プレーパーク」を行っています。プレーパークは「プレーリーダー」というスタッフが子どもたちを見守ります。木登りやベゴマ、泥んこ遊び、水遊び、穴掘りなど何でもやりたいことを自由にできる場です。かまどで火をおこせば、持ってきた食材を焼いて食べることもできます。「プレーパークでは、大人が選んで与えるのではなく、子どもたちが創意工夫して自由に遊びます。」と言

「北区で子どもの遊ぶ場をつくる会」では、「子どもたちがもっと自由に遊べる環境をつくりたい」と活動をしています。現在、中央公園拡張部



うのは、代表の佐古恵子さん。プレーリーダーの通称おかぴは「ここで出会った子どもたち同士が、泥の中でワニになってはしゃいでいたこともありましたよ」と教えてくれました。プレーパークは、子どもたちが好きなことをして思いっきり遊べる場であるだけでなく、そんな子どもたちを公園に立寄った地域のおじさん、おばさん、年配の方たちがほほえましく見守り、おしゃべりしていく場所でもあります。多世代交流もできるお外のひろば、です。「これが公園の本来の姿だと思います」と佐古さん。プレーパークの活動をもっとみんなに知ってもらい、もっと多くの人たちに参



プレーリーダー（両側の二人）と参加者の方

出張プレーパーク開催予定

11月23日 北区立馬場遺跡公園
12月 現在調整中

「1日プレーパーク」開催日などは
<http://www.kita-asobo.com/>

または 090-6519-8382 でご確認ください。

～誰にでもわかる駅情報を提供～ NPO法人ことばの道案内



代表の古矢利夫さん

「NPO法人ことばの道案内」は、視覚しやうがい者のために音声ガイドを使って、ことばで目的地までの行き方を案内する「ことばの地図」の制作を主な活動としています。例えば「改札を背にして、構内を12時の方向へ4メートルほど進むと、歩道があります」といった具合に、駅の改札からの道順を画像ではなく、「ことばの地図」にしてこれまでに、900力以上の施設について、WEB上で公開しています。

「目の見えない人がパソコンを使うというイメージはあまり一般的ではないかもしれませんが、音声ガイドを使って、多くの人がインターネッで便利に情報を得ているんです。駅ホームというのはとても危険で、



駅の実地調査をしている様子

日常的に転落事故が起きています。私自身も、三回線路に落ちました」と古矢さん。もちろん、駅員に頼めば案内してもらえますが、他人を煩わせることなく自力で行動することを望む人は多いとい

例 JR王子駅をネット上で音声ガイドを発信する……

- ホームは1つです。
- ホームは島型です。
- 1番線と2番線があり、1番線が上野方面行き、2番線が赤羽方面行きです。
- 電車は10両編成で、上野行きの先頭が1号車、赤羽行きの先頭が10号車です。
- 改札は3つあります。赤羽寄りにあるのが北口、真ん中にあるのが中央口、南にあるのが南口です。
- 改札はすべてホームより下にあります。

オープン後は「みんなの北区ささえあいマップ」

<http://kitashakyo.or.jp/map/> からリンクされる予定です。

駅利用に役に立つ情報を提供するこ

児童福祉事業

KIDSアート
プログラム

北区社会福祉協議会は、これまで福祉の世界ではあまり認知されてこなかった「アートの力」に着目しました。

昨年度より、歳末たすけあい募金を財源に「児童福祉事業」としておこなったのは、プロのアーティストを招いてアートプログラムを児童福祉施設に提供するというものです。ひとくちにアートプログラムと言ってもその内容は様々で、いろいろな素材で工作をしたり、生の音楽を聴いたり、ペンキで絵を描いたり……。

創造する喜び・新しい体験・プロのアーティストとの触れ合いは、子どもたちの元気と可能性を伸ばし、日々の生活の原動力となっています。



セロハンでつくる都電荒川線のステンドグラス

